

ICT機器を活用した学習活動

図1は、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の回答と教科の平均正答率との相関図です。「役に立つと思う」と回答した児童と、「どちらかといえば役に立たない」と回答した児童の正答率に大きな差がありません。

しかし、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うことは、勉強の「役に立つと思う」「どちらかといえば役に立つと思う」と感じている児童の割合は、昨年に引き続き9割を超えています(図2)。特に「役に立つ」と回答した児童の割合は、増加傾向にあります。ICT機器がより多くの場面で活用されていたり、個の問いや願いに応じて使用されたりしていることが推察されます。

このことから、ICT機器活用と平均正答率の相関には、今後も注意深く分析していく必要があります。

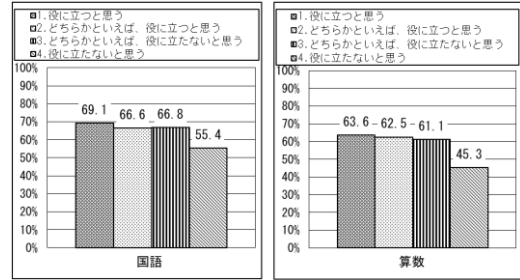


図1 「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の回答と平均正答率の相関

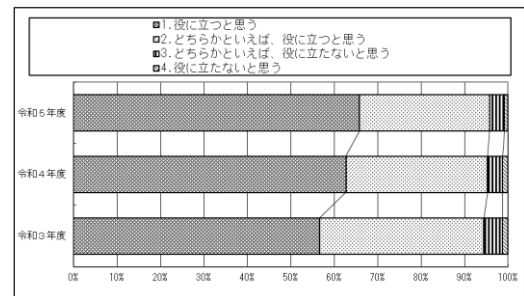


図2 「学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の回答

他者との協働

図3は、「国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分なりに考えをまとめていますか」の回答と教科の平均正答率との相関図です。

自分とは違う多様な考えを受け入れながら、自分の考えと比較検討し、自らの考えを再構築してまとめている児童は、国語では70ポイントを超える正答率となっています。一方で「当てはまらない」と回答した児童の正答率は、国語も算数も50ポイント台となっています。

児童の思考力・判断力・表現力を育むにあたり、児童が他者と関わりながら自分とは違う立場や考えを意識し、自分の考えを深めていく必要があります。そのために、特に次の3点を意識して授業改善を進めることが大切です。

- ・ 問いや思い、願いに基づいて一人一人が課題意識をもてるように導入場面を工夫する。
- ・ 一人一人の学びを見取って適切に支援しながら展開を工夫する。
- ・ 新たな学びにつながるように、終末場面の振り返りを工夫する。

図4は、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の回答と教科の平均正答率との相関図です。「当てはまる」と回答した児童の正答率は、「当てはまらない」と回答した児童と比較すると、国語で14ポイント、算数で17ポイント以上高くなっています。このことから、他者との協働を通して、自分と違う意見に触れ、多面的・多角的に考えることが学力向上につながると考えられます。

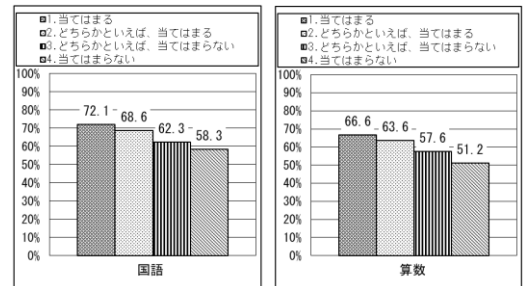


図3 「国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分なりに考えをまとめていますか」の回答と平均正答率との相関

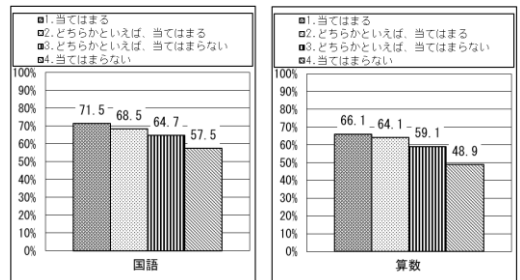


図4 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の回答と平均正答率との相関

図5は、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の回答と教科の平均正答率との相関図です。「当てはまる」と回答した児童の正答率は、「当てはまらない」と回答した児童と比較すると、国語、算数ともに10ポイント以上高くなっています。単に他者の考えを聞くだけでなく、自分の意見との違いを明確にすることを通して、自分の考えを再構築することが思考力を高めることにつながると考えられます。

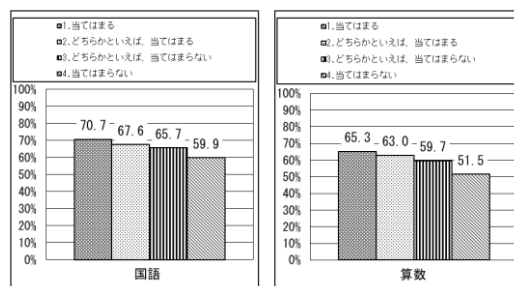


図5 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の回答と平均正答率との相関

課題解決に向けて、自分で考え自分から取り組もうとする態度

図6は、「5年生までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の回答と各教科の平均正答率との相関図です。「当てはまる」と回答した児童の正答率は、「当てはまらない」と回答した児童と比較すると、国語では23ポイント、算数では30ポイント以上も高くなっています。正答率の高い児童の方が、自分で考え、自分から取り組んでいることが分かります。

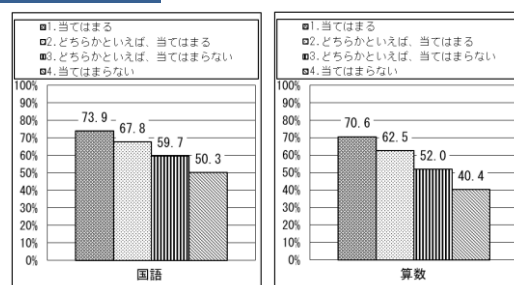


図6 「5年生までに受けた授業では、課題に解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の回答と平均正答率との相関

また、図7の「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問についても、「当てはまる」と回答した児童の正答率は「当てはまらない」と回答した児童の正答率より、特に算数では25ポイント以上高くなっています。

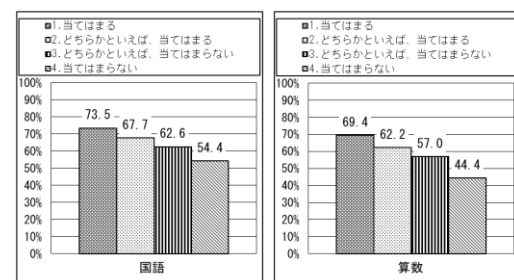


図7 「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の回答と平均正答率との相関

総括

GIGAスクール構想によって1人1台端末環境が整備され、9割近い児童が、ICT機器の活用は役に立ち、楽しいと感じています。一方で、「児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」という質問に対し、学校が「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した割合は、全国と比較すると約23ポイント低くなっています。児童の期待や願いに沿って、ICT機器も活用する授業づくりを進めていく必要があります。

また、質問紙への回答状況から、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指すことが大切であると言えます。児童が学習進度や課題などを選択できるようにしつつ、互いに学び合う環境を構成することも大切です。共同で作成・編集を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動等、児童自身が他者と交流を通して自分の考えを広げ深めることができるよう支援していく必要があります。